

FPCJオンライン・プレスブリーフィング
FPCJ ONLINE PRESS BRIEFING

グローバル・サウスの台頭と今後の日本外交

THE RISE OF GLOBAL SOUTH AND JAPAN'S DIPLOMACY

細谷雄一
Yuichi Hosoya

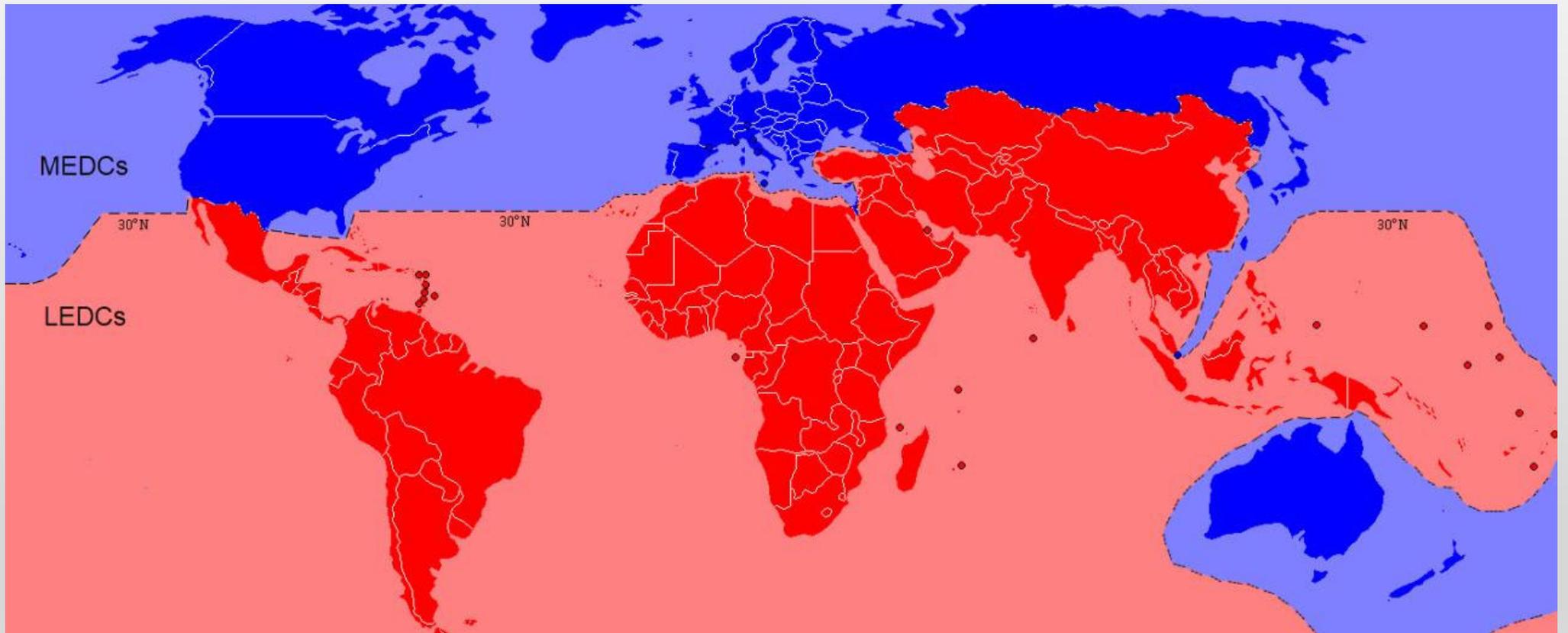
慶應義塾大学 法学部教授
Professor of International Politics, Keio University

2024年3月18日

はじめに

- ① 「グローバル・サウス」の称する諸国の台頭によって、G7や、欧米諸国は、国際社会においてマイノリティになりつつある。もはや、富や、権力や、国際的な規範を独占的に支配することは困難となっている。
- ② グローバル・サウスは、単一の声や、単一の価値観に基づいて行動しているわけではなく、それぞれの諸国が独自の判断によって影響力を行使している。それを、統一的な勢力として位置づけることはできない。
- ③ インドは、2022年12月から1年間、G20サミットの議長国として、「グローバル・サウス」における指導的な立場であることをアピールしており、2023年1月には「グローバルサウスの声」サミットをオンラインで開催して、120を超える諸国の参加を得た。
- ④ 日本は、2023年のG7議長国として、可能な限りグローバル・サウス諸国との連携を強めることを試みて、その上でインドとも緊密な協力関係を模索した。ウクライナ戦争によって分断されている国際社会の結束を強化するためにも、G7諸国とグローバル・サウス諸国の「橋渡し」の役割を果たした。

経済的な富裕度による南北の区別



(Joseph Nye, Jr., "What is the Global South?", Project Syndicate, November 1, 2023.
<https://www.belfercenter.org/publication/what-global-south>)

1 グローバル・サウスとは何か

- 「グローバル・サウス」とは、アメリカの作家であり左派活動家であるカール・オグルズビーが、1969年に初めて用いたのがその起源と言われている。
- 1970年代以降、「第三世界」とほぼ同様の語義でこの「グローバル・サウス」という用語が広く用いられるようになったが、1980年代に西ドイツ元首相のヴィリー・ブラントが、世界における不平等に関する報告書の中でこの用語を用いてから、「グローバル・サウス」という用語が広く世界に浸透するようになっていった。
- 冷戦終結とともに、それまで分断されていた西側である「第一世界」および東側である「第二世界」という用語の有効性が後退し、「第三世界」という用語も用いられないようになっていった。「第三世界」に代替する用語として、徐々に「グローバル・サウス」という用語が広く使われるようになっていく。

“Academic use of the term has exploded, and the leaders of international organizations and major democracies are deploying the phrase with notable frequency.”

「（グローバル・サウス）という用語の学術的な利用が広がっていき、そして国際機関や主要亜民主主義諸国の指導者たちも、頻繁にこの用語を利用するようになっていった。」

(Stewart Patrick and Alexandra Huggins, “The Term ‘Global South’ Is Surging. It Should Be Retired,” August 15, 2023, Commentary, Carnegie Endowment for International Peace.

<https://carnegieendowment.org/2023/08/15/term-global-south-is-surging.-it-should-be-retired-pub-90376>)

"It's complicated, and often depends on who is using the phrase. ... Despite how it sounds, it's not really a geographical term. Many countries including in the Global South are in the northern hemisphere, such as India, China and all of those in the northern half of Africa. Australia and New Zealand, both in the southern hemisphere, are not in the Global South."

「それは、複雑で、しばしば誰がその用語を使っているかによって、意味が変わってくる。その言葉の意味に拘わらず、それは実際には地理的な用語ではない。インドや中国のようなグローバル・サウスに含まれる多くの諸国は、実際には北半球に位置している。オーストラリアやニュージーランドは南半球にあるが、グローバル・サウスには含まれない。」

(David Rising, "Everyone's talking about the Global South. But What is it?", The Associated Press, September 7, 2023.

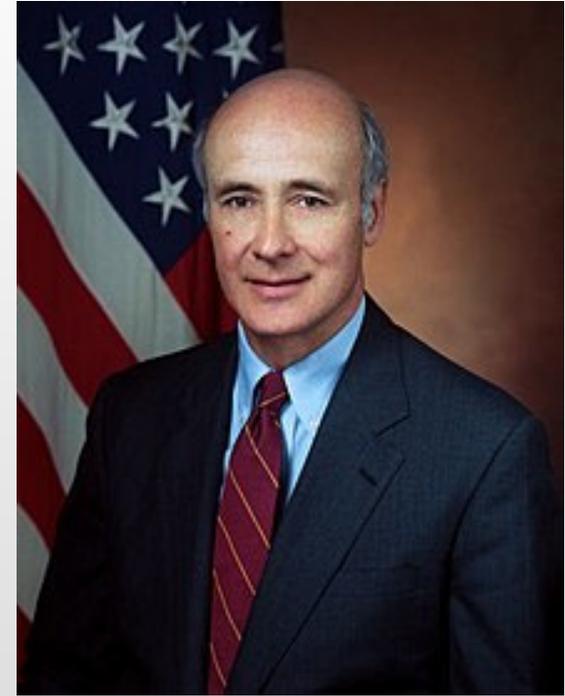
<https://apnews.com/article/what-is-global-south-19fa68cf8c60061e88d69f6f2270d98b>)

"The term, then, is more a political slogan than an accurate description of the world. ... The term's main value is diplomatic. ... For want of an alternative shorthand, they will continue to rely on 'Global South.'"

「その用語は、すなわち、世界についての正確な描写というよりも、むしろ政治的なスローガンといえる。…その用語の主な価値は、外交的なものである。その代替の用語がない以上、人々は引き続き『グローバル・サウス』という用語を使わざるを得ないだろう」

(Joseph S. Nye, Jr., "What is the Global South?," November 1, 2023, Project Syndicate.

<https://www.project-syndicate.org/commentary/global-south-is-a-misleading-term-by-joseph-s-nye-2023-11?barrier=accesspaylog>)



(Wikipediaより)

2 「グローバル・サウス」というインドの戦略

- 2022年12月1日に、インドがG20サミットの議長国になってから、インドのナレンドラ・モディ首相は積極的に、「グローバル・サウス」という用語を使うようになっていった。
- ナイ教授の指摘のように、地域的概念は、それぞれの主要国の外交ビジョンと深く結びついており、政治的な理由から独自にどのような枠組みを用いるかを決めている。たとえば、中国は「アジア」という言葉を用いて、自らがアジアの大国として中心的な位置を占めることを主張する。また、日本やアメリカは、「インド太平洋」という概念を用いて、インド洋と太平洋を繋げることで、日米豪印のような民主主義諸国が、地域協力における主導権を握ることを求めている。
- インドは、それまでの非同盟外交の伝統からも、現在の民主主義諸国と権威主義諸国のイデオロギー的な対立からは距離を置いて、むしろ「グローバル・サウス」諸国のリーダーとして自らを位置づけることを求めている。それゆえ、2023年1月12日に、第1回目となる「グローバル・サウスの声サミット」をオンラインで開催して、アフリカやラテンアメリカなど、125カ国がそこに参加をした。

"Our G20 priorities will be shaped in consultation with not just our G20 partners, but also our fellow-travelers in the Global South, whose voice often goes unheard.."

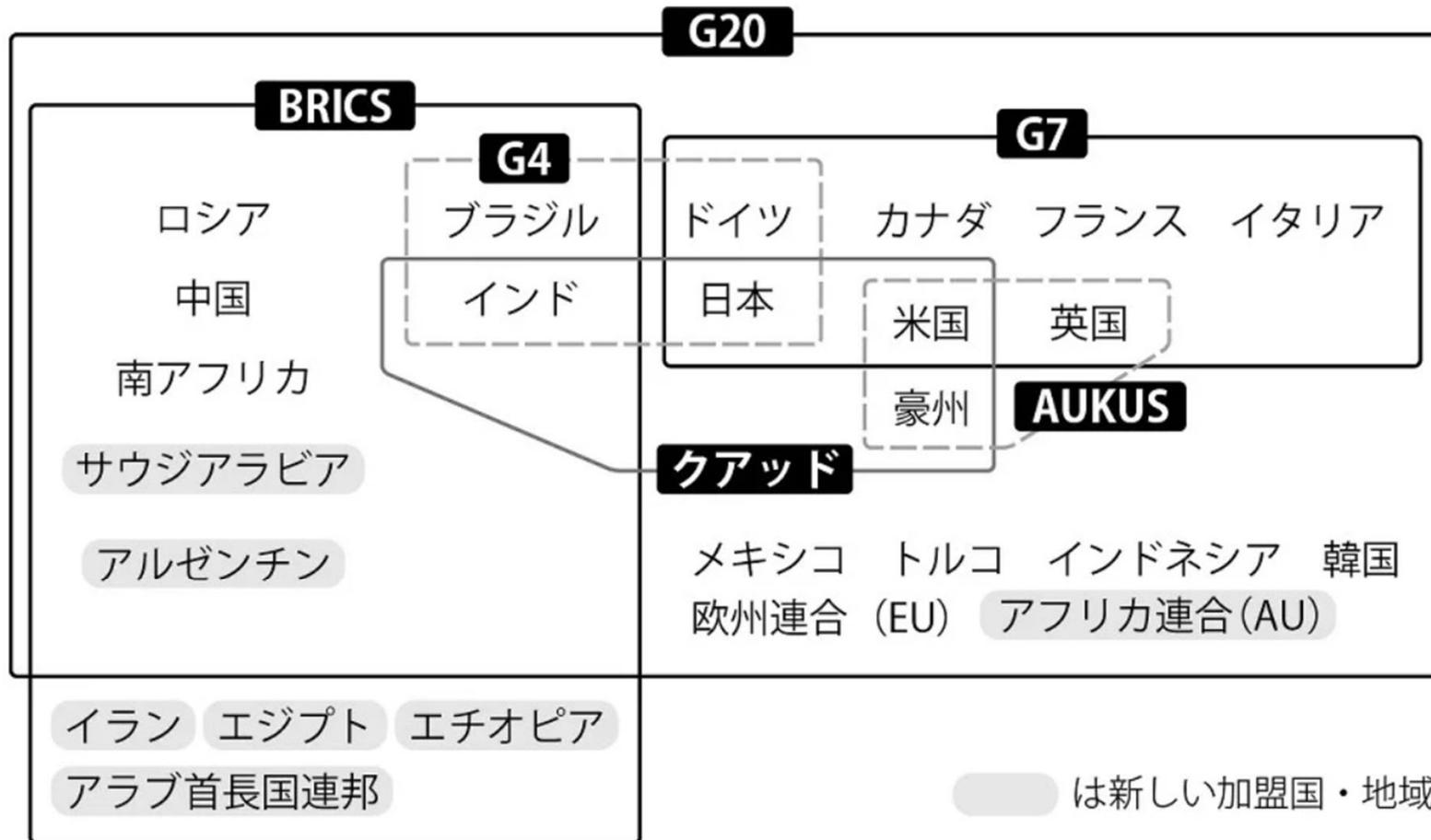
「我々のG20での優先事項は、G20のパートナー諸国とのみならず、われわれのグローバル・サウスの共に旅する友邦たちともまた協議するなかで、決定されるであろう。」

("G20: How India emerged as the voice of Global South," *Times of India*, September 6, 2023, <https://timesofindia.indiatimes.com/india/g20-how-india-emerged-as-the-voice-of-global-south/articleshow/103423878.cms>)



(Wikipediaより)

■ 多極化し拡大する国家枠組み



(「グローバル・サウスの盟主インド 日本との関係強化に期待」『読売新聞』、2023年11月8日
<https://www.yomiuri.co.jp/pluralphoto/20231030-OYT8I50094/>)

インド外務省の声明

"It was a new and unique initiative that envisaged bringing together countries of the Global South and share their perspectives and priorities on a common platform across a whole range of issues."

「これは、グローバル・サウス諸国を結集させることを予期させる、新しく独自のイニシアティブであり、さまざまなイシューについての共通の基盤の上で視座や優先事項を共有するものである。」

(Ministry of External Affairs, "The Voice of Global South Summit 2023: Unity of Voice, Unity of Purpose," the Government of India. <https://www.mea.gov.in/voice-of-global-summit.htm>. Accessed on January 10, 2024.)



The screenshot shows the official website of the Ministry of External Affairs, Government of India. The page is titled "VOICE OF GLOBAL SOUTH SUMMIT 2023" with the theme "Unity of Voice, Unity of Purpose". The page features a navigation menu with links to Home, About Us, Visits, Media Center, Foreign Policy, Consular Services, Public Diplomacy, and E-Citizen/Tenders. Below the header, there are two tabs for the summit: "1st Voice of Global South Summit 2023" (selected) and "2nd Voice of Global South Summit 2023". The main content area displays the title "1st Voice of Global South Summit 2023" and the dates "January 12-13, 2023". A paragraph of text describes the summit as a special virtual event hosted by India, aimed at bringing together countries of the Global South on a common platform to discuss various issues. The text mentions that the initiative was inspired by Prime Minister Narendra Modi's vision of 'Sabka Saath Sabka Vikas Sabka Vishwas aur Sabka Prayas' and the motto 'Vasudhaiva Kutumbakam'.

3 グローバル・サウスへの日本の外交戦略

- 岸田文雄政権は、2023年にG7の議長国になるにあたって、「グローバル・サウス」諸国との緊密な関係を発展させることを目標に掲げた。また、その上でも、インドとの関係を強化するよう努めた。
- そのような認識の背景として、G7がいまや国際社会のマイリティになっているという事実があった。1990年にグローバルなGDPの66%を占めていたG7は、2022年には45%まで低下している。あくまでも、グローバル・サウス諸国との関係を強化することによって、G7諸国もまた経済成長を維持できるとみなされている。
- 同時に、グローバル・サウス諸国の多くが、ウクライナ戦争でロシアの側にもウクライナの側にも立たずに、中立的な姿勢を示してきた。したがって、世界を民主主義諸国と権威主義諸国に二分化するのではなくて、グローバル・サウスに含まれる諸国がはたして、どのような見解を有しているのかに耳を傾けることが重要であり、そのことが国際社会での幅広い結束に繋がること、日本外交は期待している。

表1 「グローバルサウス」に言及した記事の本数

| | 全国紙 | | | | | | 地方紙 | 合計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| | 日経 | 朝日 | 毎日 | 読売 | 産経 | 合計 | | |
| 2022年3月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5月 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 6月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 7月 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 8月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9月 | 1 | 0 | 1 | 0 | 4 | 6 | 0 | 6 |
| 10月 | 3 | 0 | 0 | 1 | 2 | 6 | 0 | 6 |
| 11月 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 12月 | 1 | 0 | 1 | 2 | 5 | 9 | 0 | 9 |
| 2023年1月 | 25 | 5 | 3 | 20 | 12 | 65 | 23 | 88 |
| 2月 | 26 | 7 | 7 | 15 | 13 | 68 | 26 | 94 |
| 3月 | 72 | 14 | 16 | 43 | 32 | 177 | 133 | 310 |
| 4月 | 82 | 18 | 24 | 36 | 26 | 186 | 195 | 381 |
| 5月 | 113 | 55 | 49 | 76 | 68 | 361 | 756 | 1117 |
| 6月 | 45 | 15 | 11 | 22 | 13 | 106 | 109 | 215 |
| 合計 | 369 | 115 | 113 | 215 | 179 | 991 | 1243 | 2234 |

(注) 日経新聞は電子版、その他の全国紙は東京版を対象としている。

(出所) 「日経テレコン」のデータに基づいて、筆者作成。

(湊一樹「インド——「グローバルサウスの盟主」の虚像と実像」 アジア経済研究所、IDEスクエア、2023年9月、
https://www.ide.go.jp/Japanese/IDEsquare/Eyes/2023/ISQ2023_20_024.html)

表2 「グローバルサウス」への言及回数（日本）

| | 外務大臣 | | | | 外務報道官 | | | |
|---------|------|----|----|----------|-------|-----|----|----------|
| | 言及回数 | | | 会見 回数 | 言及回数 | | | 会見 回数 |
| | 記者 | 外相 | 合計 | | 記者 | 報道官 | 合計 | |
| 2022年3月 | 0 | 0 | 0 | 15 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 4月 | 0 | 0 | 0 | 12 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 5月 | 0 | 0 | 0 | 12 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 6月 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 7月 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 8月 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 9月 | 0 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 10月 | 0 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 11月 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 12月 | 0 | 0 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 2023年1月 | 2 | 4 | 6 | 6 | 3 | 3 | 6 | 2 |
| 2月 | 5 | 7 | 12 | 11 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 3月 | 5 | 7 | 12 | 10 | 0 | 1 | 1 | 4 |
| 4月 | 5 | 6 | 11 | 9 | - | - | - | 0 |
| 5月 | 1 | 4 | 5 | 8 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 6月 | 3 | 4 | 7 | 10 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 合計 | 21 | 32 | 53 | 156 | 3 | 4 | 7 | 46 |

（出所）外務省のホームページに掲載されている、
外務大臣と外務報道官の会見記録  をもとに筆者作成。

（湊一樹「インド——「グローバルサウスの盟主」の虚像と実像」 アジア経済研究所、IDEスクエア、2023年9月、
https://www.ide.go.jp/Japanese/IDEsquare/Eyes/2023/ISQ2023_20_024.html）

"Japan's decisions at history's turning point"

"Relations with those referred to as "the Global South" offer us important challenges and opportunities. A world emerging after the current period of transition will not see a converged single set of values, as was generally viewed in the era of globalization. The world is diverse, and as a practical matter, comparatively speaking, we are observing the rise of national powers of countries with diverging characteristics. Many of them are boosting confidence in their own economic development and are seeking a greater voice on the global stage. We cannot have our values imposed as they are. Meanwhile, those nations themselves do not have a clear and unified vision either."

「いわゆる「グローバルサウス」と呼ばれる国々との関係は、我々に重要な挑戦と機会を提供しています。今の移行期の後に現れる世界は、グローバル化の時代に一般に信じられていたような、単一の価値観に収斂するという世界ではないでしょう。世界は多様であり、現実問題として、様々な特色を持った国のパワーが相対的に増してきています。彼らの多くは経済発展に自信を強めており、国際社会でのより大きな発言権を望んでいます。彼らに対し我々の価値観をそのまま受け入れさせることはできないでしょう。他方で、彼ら自身も明確で統一されたビジョンを持っているわけでもありません。」

(岸田文雄総理政策演説「歴史の転換点における日本の決断」ジョンズ・ホプキンス大学高等国際関係大学院、2023年1月13日)

“Last year, Japan, as chair of the Group of Seven, worked in partnership with India, then chair of the Group of 20, to build bridges between developed countries and emerging and developing nations.” He added that “Strengthening ties with the Global South was a central element of this effort, as was made clear during the G7 summit in Hiroshima last May.”
「昨年、日本はG7議長国として、G20議長国のインドと連携して、先進国と新興国および途上国との間の橋渡しをするべく努力を行った。グローバル・サウスとの絆の強化はそのなかでの中核的要素であり、5月の広島G7サミットで明確に示されることになった。」

(Hiroyuki Suzuki, “Japan must take its Global South vision forward in 2024,” in *Nikkei Asia*, January 5, 2024. <https://asia.nikkei.com/Opinion/Japan-must-take-its-Global-South-vision-forward-in-2024>)



(日本国際協力銀行
(JBIC) ホームページ
より)

グローバルサウス諸国との連携強化推進会議での岸田文雄首相の演説

“I believe that going forward, enhancing the collaboration with emerging and developing countries collectively called the Global South and becoming partners with these countries, in addition to coordinating with like-minded countries, will not only serve Japan’s national interests, including its economic security aspects, but also lead the international community from division and confrontation to cooperation.”

「価値を共有する諸国と政策を調整することに加えて、いわゆるグローバル・サウスと称する新興国および登場国との協力を強化し、それらの諸国のパートナーとなることは、経済安全保障の観点も含めて日本の国益に資するだけでなく、国際コミュニティの分断や、対立を、強調へと導く上で資するであろう。」

(Prime Minister Fumio Kishida’s Remarks at the Meeting to Promote Cooperation with Global South Countries, October 17, 2023, Prime Minister’s Office.

https://japan.kantei.go.jp/101_kishida/actions/202310/17_globalsouth.html)



(首相官邸ホームページより)